

令和2年度 第3回教員育成協議会運営幹事会【育成部会】

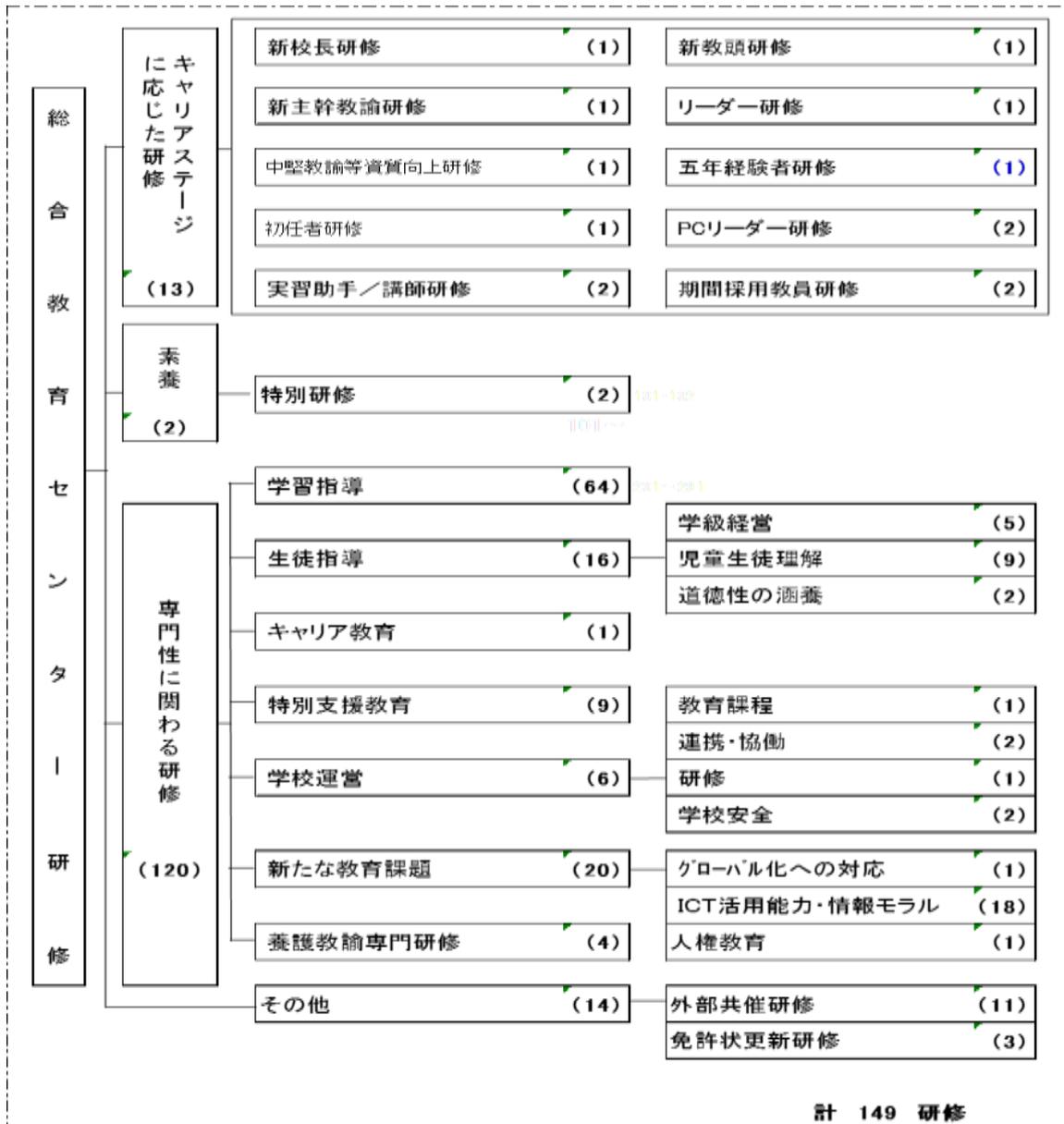
【報告事項】

1. 令和2年度研修について

新学習指導要領、やまなし教員等育成指標、研修計画、及び学校教育に関わる今日的な課題等を踏まえた上で、教育庁各課・関係機関と連携して、教職員の資質能力の向上と意識改革を図り、児童生徒に「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、山梨の未来を担う子供たちの「生きる力」の育成に向けて、学校教育の振興と充実に資するために研修会の企画・運営を行った。

キャリアステージに応じた研修、素養に関わる研修、専門性に関わる研修（学習指導・生徒指導・キャリア教育・特別支援教育・学校運営・新たな教育課題・養護教諭）等の企画・運営を統括するなか、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を考慮し、受講者の安全安心を確保すること、研修会の内容及び質を担保することを目途として、研修形態等を工夫し実施した。

令和2年度 山梨県総合教育センター研修体系 ()内は研修会数



(1) 実施概況

4月当初「緊急事態措置」による学校の「一斉臨時休業」という状況において法定研修である「初任者研修」,「中堅教諭等資質向上研修」をはじめとした研修会実施についてのガイドラインを策定し,以後はそれに則り,研修会実施に向けての協議・検討を行った。研修会実施については,受講希望を尊重する,受講者の安全・安心を担保する,この原則により4月はほぼ全ての研修会を中止,5月は資料・映像等を配信しeラーニングによって視聴する「代替研修」等を行った。6月「緊急事態措置」解除後は,センターでの集合研修を行うなかで,感染拡大防止対策を万全に講じ,複数人の移動・集散時の三密回避や,座席指定による配置の工夫,ICT機器の活用による「分散サテライト」方式での研修を行った。

7・8月夏期研修会では,感染拡大「第二波」の兆候はあったが,受講希望を尊重するという原則により,研修室内外の環境整備,消毒除菌作業等を徹底して行い,集合研修(分散サテライト方式を含む),県外講師の来所不可による遠隔オンライン研修等により120講座の研修を行った。これは当初企画した163講座の73.6%にあたり,延べ受講者数は2,318名であり,前年度比42.7%となっている。

9月以降は,県内外の感染拡大状況等を注視しながら集合研修を基本として行った。なお11月感染拡大の急加速により,やまなし教育フォーラムについてはWEB会議システムによるオンライン配信に切り替えて行った。

1月実施予定であった初任者研修,中堅教諭等資質向上研修等においては,感染拡大状況を考慮し,集合研修をeラーニングによる「代替研修」に切り替えて行い,法定研修の全日程を終えている。

2月研修については,WEB会議システムによる遠隔録画機能を用いた「代替研修」等を行い,センターに於ける全ての研修日程を無事に終えることが出来た。

令和2年度における研修会実施概況は次の表①～③の通りである。

《表①》月別実施状況

(令和3年2月24日現在)

	集合	オンライン	代替	中止	備考
4月研修			1	9	
5月研修	1(0)		8	3	
6月研修	7(2)		6	3	
7月研修	3(1)		2	2	
夏期研修	115(2)	5	16	27	Zoom,Webex
9月研修	5(1)				
10月研修	10(2)		1	1	
11月研修	2(0)				
12月研修	2(0)	1			Zoom
1月研修			4		
2月研修		2	1		Zoom, Teams

計 () 内は「分散サテライト方式」実施数 5

(令和3年2月24日現在)

《表②》過年度比較

項目 / 年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
定員充足率 (%)	84.8	84.3	73.7
延べ受講者数 (人)	13,285	14,452	11,315
満足度 (満足と答えた割合) (%)	92.0	93.7	95.9

《表③》令和2年度領域別状況

(令和3年2月24日現在)

領域	研修会数	延べ受講者数(人)	定員充足率(%)	満足度(%)	
素養	2	(190)	(63.3)		
キャリアステージ	13	7,221	112.8	98.4	
専門性	学習指導	64	1,099	63.8	92.0
	生徒指導	16	1,138	69.7	89.9
	キャリア教育	1	10	40.0	87.5
	特別支援教育	9	952	65.9	85.6
	学校運営	6	454	122.5	89.4
	新たな教育課題	20	301	50.4	90.4
	養護教諭	4	33	46.3	94.3
その他 (外部共催・免許更新講習)	14	107	25.1	外部共催のみ 91.6	
全体	149	11,315	73.7	95.9	

素養 () 内はオンライン配信のため全体から除く

(2) 成果

○研修会受講者アンケートより (抜粋)

- ・センターでの感染防止対策が十分に行われ、安心して対面研修に臨むことが出来た。
- ・コロナ禍において、対面ではなく「代替研修」を行ったことは評価できる。
- ・YeL (やまなし eラーニング) の事前視聴は有効であり、その後の集合研修に活かされた。
- ・単なる「中止」や、資料のみを視聴する代替研修ではなく、センターでの集合研修において行った遠隔「オンライン研修」について、音声や映像が度々止まる等の通信環境による課題は残ったが、「先行事例」としては評価できる。
- ・遠隔「オンライン研修」では、受信者側でのファシリテーション等を行っていただき、講師との意見交換や協議等が出来たことは評価できる。オンラインではあったが、講師とやりとりが出来たことは有意義であった。
- ・特別支援教育研修会での遠隔「オンライン研修」ではICT機器を活用した実習・演習も行い学校における今後の実践活動に活かしていきたい。

○まとめ

- ・感染拡大状況によって県外講師の来県が「不可」となった際、Web会議システムの遠隔録画機能を用いての資料作成を行い代替研修が実施出来たことを今後活かしていく。
- ・コロナ禍において行った「新たな研修形態」に対する評価は様々であったが、センターで行う研修に対する先生方の期待の大きさとして捉え、今後の研修会の運営を考慮していきたい。
- ・満足度 95.9% (前年度比+2.2) については、コロナ禍の中で主体的に研修受講を希望して来所した先生方の評価として捉えている。アンケート回答率は 86.2% であり、次年度の研修会に於ける「内容と質の担保」を目途とし、研修受講者の求める適正な内容を提供できるよう、今後も検証を続けていく。

(3) 課題

○研修会受講者アンケートより（抜粋）

- ・資料映像等視聴による代替研修については、研修内容をより深く理解するためにも「対面で直に話しを聞きたい」という声が多数あった。
- ・研修内容によっては、集合研修ではなくeラーニングによる「代替研修」で良かったのではないかとの指摘もあった。
- ・コロナ禍により短縮された夏季休業期間において、研修会への参加・受講が難しくなったため延期対応など、日程変更についても検討していただきたかったとの声があった。

○講師・運営担当者より

- ・県外講師が来県出来ないこととなり、Zoomによる遠隔オンライン研修となった。機器の扱い、通信環境の設定、受信・配信等にまだ不慣れな点が多く、受講者・講師に迷惑をかけた。実施可否の判断時期も含めて今後への課題は多く、センターとしての統一的なスキルアップ、目線合わせ等が必要である。
- ・遠隔オンライン研修では、「受信会場側の雰囲気伝わりにくい」という講師からの指摘があった。受信者側に於けるファシリテーション等を運営担当者によって行う必要性があることを再度認識し、今後の検討事項としていきたい。

○まとめ

- ・令和2年度はコロナ禍に於ける緊急事態宣言、一斉臨時休業という非常事態の中、研修に取り組むことの意味、学び続ける教員像の具現化に向けて、センターが提供できる教員研修の在り方はどうあるべきかを、改めて考える機会をいただいたととらえている。
- ・「定員充足率」73.7%（前年度-10.6%）、「延べ受講者数」11,315人（前年度-3,137人）の「減」については、短縮となった夏季休業期間に行われた7・8月夏期研修会での大幅な減少が主な要因と考えられる。この減少については、来年度4月当初の研修会申込事務説明会に於いて再度丁寧な説明を行い、研修内容の改善点や研修形態の工夫等について周知徹底を図ることで受講者の増加を目指していきたい。
- ・令和2年度の研修実績等を踏まえ、令和3年度研修については対面による「集合研修」を基本とし、感染拡大防止の観点に立った上で、遠隔オンライン研修、YeLの積極的活用について、今後も検証を進めていく。

(4) 法定研修

【初任者研修】実施概況

○対象者数

※高校は、市立（甲陵高校）3名を含む。栄養は任用替4名を含む

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	養護教諭	栄養教諭	合計
採用者数	149	81	25	32	15	1	303
対象者数	130	75	26※	26	10	5※	272
教職大学院	3	3	0	0	0	0	6
期間採用等	34	19	11	6	5	1	76

○研修の構成

初任者研修は、文部科学省が示している7分野（基礎的素養、学級経営、教科指導、道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間、生徒指導・進路指導）と、「やまなし教員等育成指標」で求める資質能力に基づいて研修を行っている。

令和2年度初任者研修は、校内研修が年間240時間以上、センター等に於ける校外研修が年間19日で構成され、有益な研修に取り組んだ。なお、「新採用研修」として行っている養護教諭及び栄養教諭については、校外研修がそれぞれ14日、13日で構成されている。また、今年度より初任者研修「弾力的運用」として校内研修・校外研修ともに、「教職大学院修了者一部研修免除者」「期間採用等経験者一部研修免除者」については、一部研修を「免除」して行った。

○成果

- ア 校内研修（初任者自己評価、学校長・拠点校指導教員・校内指導教員アンケートより）
- ・拠点校指導教員、校内指導教員をはじめ、全校体制でのOJTによる指導の理解が進み日々の実務研修から学び、職務に対して意欲的に取り組む姿が見られた。
 - ・初任者が校長をはじめとする教職員に対し、「報告・連絡・相談」を密に行い、感染症予防対策等を行いながら、教育公務員としての責務や行動規範を身に付けると共に、それに基づいた行動を意識する姿が見られた。
 - ・各校において、全教職員の協働によって初任者研修に取り組もうとする体制づくりに努めた。
- イ 校外研修
- ・研修後「受講記録」から、初任者に研修を通じて組織としての学校の一員であることの自覚が育ったことが伺える。
 - ・コロナ感染症対策を講じた研修の運営方法や工夫、また分散サテライト方式による研修を自ら実際に経験することで、コロナ禍に於ける勤務校での実践に役立てることが出来たとの感想が多数見られた。
 - ・異校種授業参観研修等を通して、児童・生徒の様子や先輩教員の教授法、異校種での学びとその指導の在り方について、理解を深めることが出来た。
- ウ 受講者アンケートの結果より

	満足した	どちらでもない	不満である
回答平均 (%)	98.6%	1.4%	0.0%

○課題

- ア 初任者自己評価、学校長、拠点校指導教員、校内指導教員アンケートより
- ・今年度より実施した初任者研修「弾力的運用」については更なる理解を図り、全校での協力体制づくりを進めることを確認していく。
 - ・「弾力的運用」にあわせ、「週時程」を反映させた「年間指導計画」作成の理解を図る。
- イ 研修内容および運用の継続的見直し
- ・教員採用年齢の引き上げ等により、多様化が進む初任者の実態に応じた研修内容の改善を進める。
 - ・今後も予想される採用者数増加傾向に対応した研修運営方法の改善を図る。
 - ・感染症予防対策を講じ、安全で安心して受講できる研修環境を整備する。
 - ・各種書類の提出方法や校外研修の実施方法等について、市町村教育委員会や各教育事務所と連携し、より効率的な研修会の運用を図る。

【中堅教諭等資質向上研修】実施概況

○対象者数

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	養護教諭	栄養教諭	合計
過年度	67	51	34	30	17	0	199
新規	39	27	30	17	6	5	124
対象者数	106	78	64	47	23	5	323

○研修の構成

令和2年度中堅教諭等資質向上研修は、教諭については「総合教育センター等における必修研修」（必修1-1～8-1）と「所属校における研修」（20回程度）で構成され行われた。

養護教諭及び栄養教諭については「総合教育センター等における研修」（必修1-1～8-1）と「所属校における研修」（5回程度）で構成され行われた。

受講期間については、「総合教育センター等における必修研修」は対象年度から5年以内とし、「所属校における研修」については、原則として対象年度内に行うこととしている。

○成果

- ア 総合教育センター等における必修研修
- ・「やまなし教員等育成指標」第2ステージの内容を踏まえ、中堅教諭が勤務場所を離れて校種等種別を越えた交流を行うことによって、学習指導・生徒指導・学校運営・新た

な教育課題等、必要な資質能力の向上が図られた。また、研修の内容を自らの授業や学級経営等に生かしたい等、受講記録には意欲の高まりを感じさせる記述が多く見られた。

- ・他校での授業参観や研究会参加等、学習指導に関する研修では相互に学び合い、知識・技能を十分に身につけることが出来た。特に、甲府市教育委員会及び各教育事務所実施の研修会は、実践的な内容であり受講者に大変好評であった。
 - ・山梨大学との連携により、各校種・教科ごと少人数での講座が受講でき好評であった。教科指導法について大学での知見を取り入れることができ、教員養成と育成との一体化が図られた。
 - ・教員免許状更新講習受講により、延べ421人(76.7%)が「代替申請」を行った。必修研修の免除・代替制度を利用することで受講者の負担軽減につながっている
 - ・必修4-1、4-2の実施時期を隔年で交替したことで、授業日の研修会を受講するにあたり、複数年での受講計画が可能となった。
- イ 所属校における研修について
- ・所属校の校長は対象者の事前評価を行い、校長等の指導・監督のもと20回程度の所属校における研修を実施した。
 - ・県教育委員会では、「学習指導等に関するもの」「生徒指導等に関するもの」「学級経営等に関するもの」「特別活動等に関するもの」等の研修分野について、題目・事例等を例示した。
- これを受け、研修終了後「事後評価」に於いては、各校の課題等を踏まえ、実践を通じて授業の改善や教材の開発に取り組んだこと、児童・生徒の実態に応じた指導法の工夫やクラス体制づくり、連携・協働の在り方等について管理職や同僚等と協議・検討を重ね教職としての知見を深めたこと等の様々な成果が報告されている。
- ウ 受講者アンケートの結果より

	満足した	どちらでもない	不満である
必修研修平均	89.1%	10.7%	0.2%

○課題

- ・教員採用の年齢制限が緩和され、今後受講対象者が増加することが予想される中、各研修会の数、定員等の検討が必要である。

(5) やまなし学び続ける教師のためのポートフォリオ

○「研修履歴票」活用について

昨年度開始した研修履歴票の活用については、センターHP上に電子データを置くとともに、法定研修（初任者研修・中堅教諭等資質向上研修）、五年経験者研修、悉皆研修、希望研修等の開催時において受講者への周知を図り、活用への取組を呼びかけた。

○活用状況アンケート実施について

対象；令和2年度「総合教育センター研修」受講者（経年研修は除く）

期間；令和2年11月24日～12月8日

	現在使っている	以前使っていた	使う予定がある	使う予定はない	存在を知らなかった	合計
人数	174人	60人	884人	64人	285人	1467人
%	11.8%	4.1	60.3%	4.4%	19.4%	

昨年度 (4.9%) (12.1%) (59.9%) (23.0%)

○活用状況アンケートより（抜粋）

- ・自分のことだけではなく人材育成という観点から研修履歴を通して助言等していくために活用したい。
- ・自身の学びの意欲を高めるために、どのように自分が成長しているのかを可視化したいので活用していきたい。
- ・有限である教員生活の中で、また赴任した学校の一員として働くうえで必要だと考えるので今後活用したい。

- ・これまでどのような研修を受けているのかを振り返り、来年度以降自分が受けるべき研修を探す指標として活用したい。
- ・今年度はコロナ対応のために学校では教育課程の実施においても変更等があり、その対応に追われ受講履歴票の活用は出来ていない。今後は総合的に取り組めるよう気をつけたい。
- ・ポートフォリオを活用して、学びの履歴をつくっていくことが大切だということは認識している。有効な活用の仕方を学んでいきたいと思う。
- ・今年度より学校現場に戻り、これまで取り組むことができなかった。知識としてはあるが活用することが出来ていなかった。今後に生かしたい。
- ・研修のみが「学び続ける」ということではないと考えているため、活用する予定はない。
- ・書き方が難しいと感じている。入力方法が複雑で、私個人としては難しい。
- ・あまり活用するメリットが感じられない。
- ・もう少し読み込まないと実務に活かせない。
- ・アンケートをデータで取っているのであれば、このポートフォリオもデータ化してほしい。

○まとめ

- ・研修履歴票の活用開始から2年目となり、アンケート結果より現在および今後使用しようとする教員の割合が若干向上したことが分かる。活用目的および効果等をさらに周知するとともに教職員に対して活用を督励し、教員自身のリフレクションに結び付けていくことを検討していく。
- ・管理職をはじめ、研究主任等ミドルリーダーへの周知、「自己観察書」記入に於ける研修計画の立案に役立てられるよう、センターからの情報発信に努めていきたい。

2. 2020 やまなし教育フォーラム「山梨県で『学校の先生』になろう！」

- (1) 日時 令和2年12月13日(日) 14:00~16:10
- (2) 会場 山梨県立図書館2階多目的ホールより「オンライン配信」
- (3) 参加者 211名(オンライン配信・視聴による)
- | | | | |
|------|------|----------|-----------|
| 当日参加 | 211名 | [大学生 79名 | 高校生 132名] |
| 昨年度 | 130名 | [大学生 70名 | 高校生 60名] |

(4) 内容

- 第1部 パネルディスカッション 14:18~15:28 (70分間)
 「山梨県で教師をする『魅力』を語ろう」
 パネリスト：県内小中特支各学校の現役若手教員5名
- 第2部 ミニ講義 15:30~15:55 (25分間)
 「山梨県で先生を目指す皆さんへ」
 講師：山梨県教育委員会 義務教育課人事担当

(5) 成果

- ・県内若手教員から、教職に興味のある大学生、高校生に向けて「山梨で教師をする魅力」を伝えとともに教員採用試験情報等を提供し、教職志望者の意欲を喚起するという所期の目的は達成された。
- ・学校現場の状況を生の声として届けることで、大学生・高校生にとり山梨県の教員として働くイメージづくりに繋げることが出来た。
- ・実施時期について、コロナ禍での感染症対策、学校の状況における参加募集等、準備開始が大幅に遅れたが、実施形態の変更等もある中で12月実施が妥当であった。
- ・実施形態として、当初予定の県立図書館を主会場とし、オンライン会議システム導入での併用型を計画。12月実施直前の感染状況等を踏まえ、参加者の安全安心を担保することを目途として直前での「完全オンライン配信 (Zoom)」に切替え実施した。
- ・参加者状況は、昨年比162.3% (大学生112.9%, 高校生220.0%) となっている。

(6) 実施アンケートより 別紙 [参考資料②]

- 質問① 所属校種 高等学校 64.9% 大学(県内) 28.6% 大学(県外) 6.5%
- 質問② 周知方法 在校教職員から 64.9% 掲示ポスター 16.1%
- 大学(課題等) 12.5% その他(HP等) 6.5%

質問③- i 開催時期	ちょうどよい	96.4%	別の時期	3.6%
質問③- ii 別の時期	7～8月	長期休みと重なる時期		
	夏頃	オンライン・オフライン問わず参加しやすい 教員採用試験への取組を始める時期として 受験と被らない時期として 進路選択を考える時期として		
	9月	12月は高校3年生で進学先が決定している人もいる		

質問④ 教員志望の校種等	小学校	34.8%	中学校	37.6%	高校	16.3%
	特別支援	2.8%	養護教諭	2.8%	栄養教諭	0%

質問⑤ 教育フォーラムの満足度	非常に満足	満足	普通	やや不満	不満
[1部]	26.8%	50.0%	14.3%	3.0%	1.2%
[2部]	25.0%	47.0%	21.4%	0.6%	1.2%

質問⑥ 参加して良かった点（抜粋）

- ・先生方の生の声が聞けたことで、先生という仕事がより身近に感じられたこと。
- ・教員になり働いていくイメージが出来、将来について詳しく考えるきっかけになった。
- ・山梨県で教員になることの魅力を改めて感じられた。実際に若い先生方の話を聞くことが出来たことも大変貴重だった。
- ・教員の仕事の実際や、養護教諭や支援学校の先生からも話を聞いて、視野が広がった。
- ・教職の良さや苦勞を知ることが出来た。
- ・校種を決めたきっかけ、児童とのコミュニケーションでの心掛け等を聞けたこと。
- ・県内と県外の大学の「良いところ」を聞けたこと。
- ・来年度の教員採用試験の詳細や現役の先生方からのアドバイスがとても参考になった。
- ・採用試験の流れや内容を知ることが出来、年ごとの倍率が知れたこと。

質問⑦ 改善してほしい点（抜粋）

- ・山梨県で教員をするメリットがあまり伝わってこなかった。
- ・教員の良い面の話が多く大変な面や辛いことなどの話が少なかった。
- ・もう少しディスカッションの時間を長くにとって欲しい。
- ・教師として長年働いている方のお話も聞きたかった。若い先生方とは違う別の視点から山梨県で教師として働くことについて知ることが出来ると思った。
- ・カメラの画質、マイクの音量等の改善をお願いしたい。
- ・その場で質問が送れるようにしてほしい。
- ・今回はオンラインだったので、予め手元に資料があると分かりやすかった。

質問⑧ その他 感想・意見等（抜粋）

- ・大勢の人が集まるのが難しい中で完全な「オンライン開催」となりましたが、参加者にきちんと「映像と音声」を届くようにしていただき、とても良かった。
- ・昨年に比べ「第1部」を聞いていてためになりました。赤裸々にお話ししてくれることでイメージが分かりやすく、山梨県の教員について理解を深められたと思います。
- ・昨年は会場で先生方の熱いディスカッションを聞くことが出来たので、実際は会場のほうが良いのではと思いましたが、オンラインでも先生方の貴重な話や熱意が感じられたので、とても有意義でした。貴重な時間をつくっていただき感謝します。
- ・今回、オンラインで事前にとった質問をもとにして話を進めてくださったので、昨年よりも詳しいことを聞けてとても良かったです。
- ・先生方の話以外にも、山梨県教育委員会の方から直に教員採用試験の詳しいお話をしていただき参考になりました。モチベーションが上がり絶対に教師になりたいと思いました。

(7) 課題（次年度・素案）

今年度の準備から実施に至るまでの状況、実施内容等を踏まえ、次年度3年目となることを考え、以下の点について検討を進める。

- 主 催；県教育委員会事業とし、教員育成協議会（養成・人事・育成部会共催）での企画立案および運営・実施検討を行う。

- 実施日；令和3年10月3日（日）（予定）
- 参加者；大学生（1，2年次），高校生（1，2年生）
- 主会場；総合教育センター（オンライン配信「併用」方式）
- 内 容；主会場において「パネルディスカッション形式」等
 パネリスト … 県内各校種・職種 教職員（年代等は以後検討）
 主題「山梨県で『学校の先生』として働く魅力，意義，課題等を語り合う」についてパネリストおよび大学生・高校生が，具体的に意見交換できる「場」としての設定大学生向け，高校生向けとして，「語り合う内容」の検討が必要。
 「教員選考検査」情報等を提供する場としての設定も必要。
- 名 称；現在「やまなし教育フォーラム」⇒ 山梨大学に於いても「同名イベント」あり。
 変更検討も必要。

3. 令和3年度研修企画について

(1) 研修全体について

総合教育センターでは「基本計画」に基づき，「学校教育を支援する確かな情報発信源としての総合教育センター」として，学校教育の振興と充実に寄与できる研修の企画・運営を行っている。さらに「やまなし教員等育成指標」の改訂等に伴い「教員のキャリアステージ」に応じた研修体系と研修内容になるように努めている。

(2) 基本方針

- ア 「やまなし教員等育成指標」に基づく研修体系を整備し教員の資質能力の向上を図る。
- イ 研修日程の効率化・形態の工夫等により教員の多忙化改善とともに研修効果を高める。
- ウ 新型コロナウイルス感染症対策等に配慮した研修を企画する。

(3) 研修会企画に於ける改善点

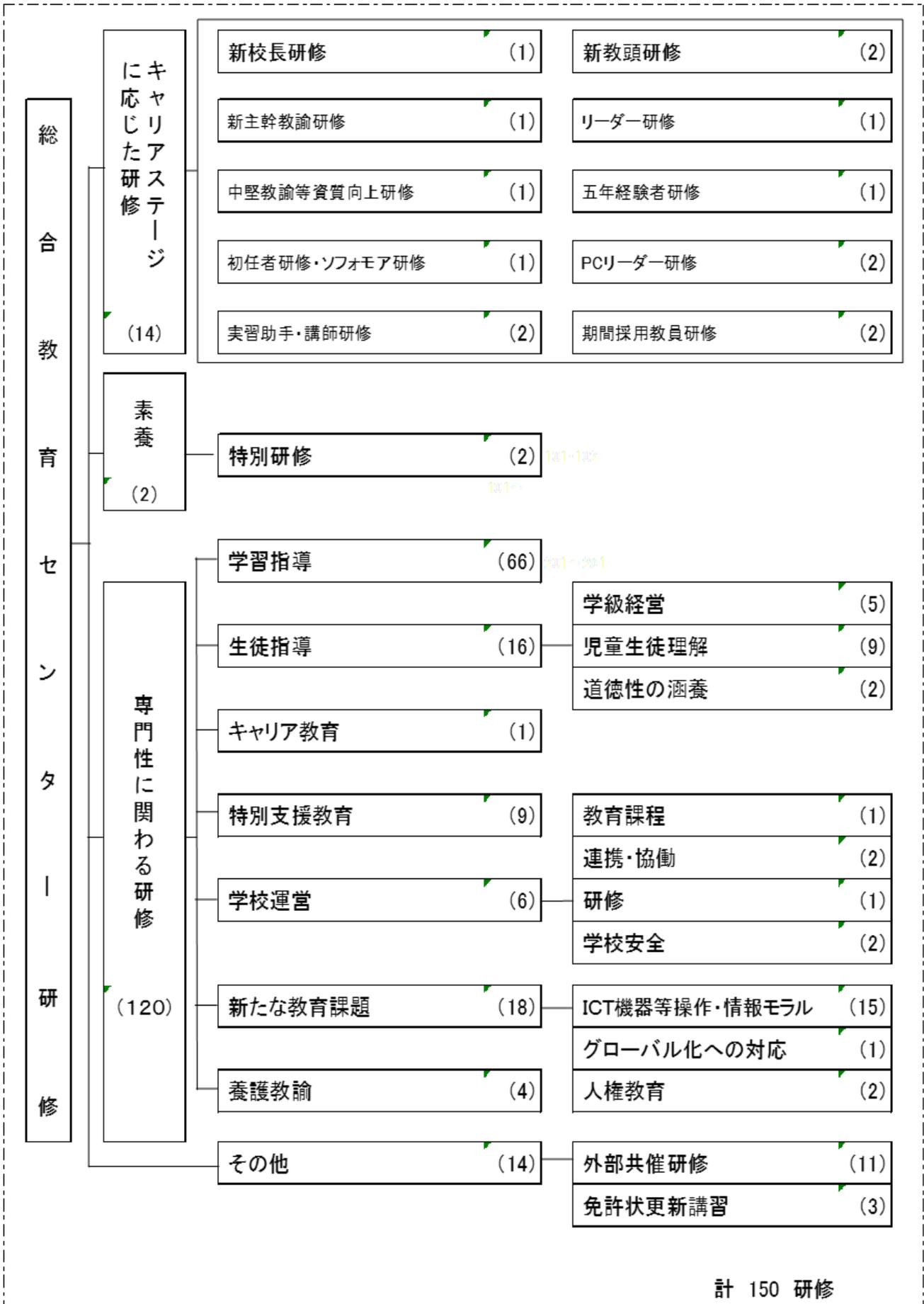
- ア 「やまなし教員等育成指標」に基づき，各校種ごと第1～3ステージに沿う研修体系の確認と整備を行う。
 - ・研修会名称「主題名・副題名」設定による整備と周知への工夫，受講促進を図る。
 - ・ソフオモア研修の構築と運用開始により，「第1ステージ」研修の強化を図る。
 - ・教科・領域「重点項目」に基づいた研修および研修内容の企画・運営を行う。

教科・領域「重点項目」

- 学習指導要領（主体的・対話的で深い学び）
- 学習評価（目標と指導と評価の一体化）
- ICT活用指導力（教科授業力，特別支援，ICT活用能力）
- 人権教育 外国語教育 道徳教育 防災教育
- 環境教育 学校生活，集団づくり
 （いじめ対策，SOSの出し方，ストレスマネジメント）
- 通常学級・高等学校における特別支援教育（通級指導等）
- グローバル化

- イ YeL（やまなし e ラーニング）積極的導入による研修内容の充実と日程の効率化等を図る。
- ウ 新型コロナウイルス感染症対策等に配慮した研修会の企画・運営を行う。
 - ・初任者研修における「二団編成」日程での実施
 - ・研修会会場の新定員設定
 - ・研修形態の工夫等

(4) 研修体系



(5) 法定研修

【初任者研修】

ア 研修計画 別紙 [参考資料③]

イ 対象予定者数(除外者を含む) ※高校は市立(甲陵高)1名, 栄養は任用替1名を含む

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	養護教諭	栄養教諭	合計
採用者数	159	53	24	31	15	0	282
対象者数	140	51	22※	26	14	1※	254

ウ 実施計画

① 初任者研修「弾力的運用」 ※校外研修実施日数には授業研修を含む

対象初任者	校内研修時間	校外研修日数※
一般初任者	240 時間以上	19 日
教職大学院修了者	180 時間以上	15 日
期間採用等経験者	120 時間以上	13 日

なお「期間採用等経験者」に該当する免除対象は次の通りとする

平成27年4月1日以降, 山梨県公立学校(小・中・高・特支) 臨時的任用教職員(期間採用教員, 代替教員)として, 令和3年3月31日現在で, 採用「同校種」に於いて通算3年以上の勤務経験がある者とする。期間の計算にあつては358日以上を1年とする。

② 宿泊研修

令和2年度当初予定と同様, 1泊2日, [前団・後団]での実施予定(八ヶ岳少年自然の家)

【中堅教諭等資質向上研修】

ア 研修計画 別紙 [参考資料④]

イ 対象予定者数

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	養護教諭	栄養教諭	合計
過年度							
新規	36	31	16	12	5	2	102
対象者数							

ウ 実施計画

① 研修内容の検討

- ・必修1-1(参考資料④)実施内容及び運営等について山梨大学との連携を図りながらさらに検討を進める。
- ・必修6-1, 7-1, 8-1 選択講座について受講者の便宜も考えあわせて, 「講座数」「日程」等の調整を行う。

② 研修日程の変更

- ・必修4-1, 4-2の実施時期については, 受講者の便宜も考えあわせて, 「隔年」で交替実施とする。

③ 運営の改善点

- ・研修情報システムの改修により, 必修研修の「免除・代替申請」状況を含む「個人受講履歴」を適正に管理し, 受講者自身および所属長が閲覧出来るように改善を行った。